



ユニバーサル農業さくら野菜お届け便

～ 地元で育った安心・安全・新鮮な採れたての野菜をお届けします ～



お届け便の内容（時期等によって野菜の種類は変わります）

NPO	企業	行政	教育	地縁
-----	----	----	----	----

■事業運営団体

生活クラブ風の村
(社会福祉法人生活クラブ)

■協働パートナー

- ☆生産者(新規就農者) ☆生活クラブ虹の街
- ☆生活クラブ風の村とんぼ舎さくら
- ☆オソロク倶楽部(社会福祉法人印旛福祉会)
- ☆障害者支援施設めいわ
(社会福祉法人愛光)
- ☆NPO法人地域創造ネットワークちば
- ☆佐倉市

■事業の手法

☆事業協力

■事業費

☆370万円



事業概要

農業を通して様々な人がつながりあう「ユニバーサル農業」。新規就農者の販路先確保や、障害者福祉作業所の施設外就労の拡大などのため、福祉作業所の利用者・スタッフが、畑で野菜を収穫・パック詰めし、福祉作業所で製造された加工品とともに、地元企業や団体へ定期的に配達を行っています。また、ユニバーサル農業を広めるためのイベントや野菜を使ったランチ会なども開催しています。

協働までの経緯

佐倉市では農業従事者の高齢化等による遊休農地の拡大に対応するため、地域における将来的な農地利用の検討や、新規就農支援に取り組んでいました。一方で、平成23年度に「第4次佐倉市障害者計画」が施行されたことにより、障害のある人の就労支援にも効果的に取り組んでいく必要がありました。

平成23年8月、団塊世代等の地域活動支援を行っていたNPO法人地域創造ネットワークちばが、「ユニバーサル農業」を広めるため、福祉作業所や新規就農者等が課題を共有し、アイデアを出し合うワークショップを佐倉市で開催しました。

そこに参加していた生活クラブ風の村が、提案されたアイデアを実際の取組につなげていけないかと市に相談したところ、新規就農支援及び障害者就労支援の両方を目的とした事業を企画・実施することになりました。

地域の障害者支援団体や生産者にも協力を求め、10月には野菜や加工品を地域の企業や希望者に配達する『野菜お届け便』をモデル実施し、平成24年度に、県の補助金事業採択を受け、地域の関係団体の話し合いの場となる円卓会議を設置し、本格的取組に向けた検討を行い、平成25年度には関東農政局の交付金を活用して、お届け便のほか、イベント開催など事業の充実を図りました。現在も月に1回円卓会議を開催し、お届け便のより良い仕組み作りの検討や、イベント出展時に報告を行っています。

主な事業内容(年間スケジュール等)

- ①野菜(農薬および化学肥料:栽培期間中不使用)の収穫及びパック詰め(配達日前日)
- ②野菜や農産加工品の配達(原則毎週火曜日)
- ③「ユニバーサル農業フェスタ」の開催(年1回)
- ④生産者と消費者との交流を兼ねた収穫体験とランチ会の開催(年2回程度)
- ⑤円卓会議(月1回程度)
- ⑥直売会の開催(月2回程度)
- ⑦ユニバーサル農業さくら販売会の開催(H28年度～/年1回)

主な協働パートナーとの役割分担

- 【NPO】事業企画、野菜の収穫・パック詰め及び配達(配達先は団体で分担)、チラシや納品書等の印刷、円卓会議での事業報告・意見交換
(事務局は生活クラブ風の村が担い、会議準備やチラシ等の作成、アンケートを実施)
- 【生産者】事業企画、野菜の生産、パック詰め準備、お届け野菜の紹介
- 【行政】事業企画、助言、広報
※配達先には、購入者への仕分けや集金等を行う担当者がおり、意見や要望などをとりまとめてくれる。



安全な野菜づくりに取り組むアグリベアラーのみなさん

協働事業によって生まれた成果

- 広報やPRできる範囲が広がり、新規販路先の確保・収益につながりました。
- 個々の活動では品物の生産量や種類に限界があるが、会議で生産状況や購入者の要望や意見を共有することで互いに協力して安定した供給ができるようになりました。
- 平成26年4月には、事業に参加している新規就農者が「アグリベアラー」という団体を立ち上げてイベントに出店するなど、活動の幅を広げています。
- 福祉作業所では、畑に出向いたり配達を行うことで、作業所利用者が地域の人と触れ合える施設外就労の場が確保できました。
- 直売会を主催し、福祉施設で月2回開催できるようになり、地域の理解や協力が得られるようになってきました。
- 佐倉市指定文化財 武家屋敷の畑(2か所)整備・農作物育成の依頼を受け行うなど実力をつけてきています。
- 運営に関わっているユニバーサル農業フェスタinさくらは毎年開催され、来場者数を伸ばしています。

♡ コラボのコツ!!

- ★ 事業のスタート時は行政が関わっても、継続していくためには行政が前に出るのはNG
- ★ 会議は話しやすい雰囲気作りに配慮
- ★ お互いの状況や購入者からの意見・要望をしっかりと共有し、問題があればすぐに相談

市は、公共事業でもあることから、企画内容が目的から外れていかないように助言を行うアドバイザーとしての役割を担っていますが、運営などの中心はNPOに任せています。

会議では、お互いに率直な意見や問題点を出してもらうことが大事なので、堅苦しい会議ではなく、おしゃべり会のような雰囲気で進めています。

今後力を入れていきたいこと

- 新規就農者や購入者増加のため、毎週100パックを目標に、チラシをまくなど広報・PR に力を入れていきたいと考えています。
- 事業をきっかけに新規就農者の増加や遊休農地の解消を目指し、数値などでの具体的効果が見えるようにしたいと考えています。



農業フェスタ in さくら2014の会場

運営団体マネジメント&活動実績

* 生活クラブ風の村(社会福祉法人生活クラブ) <http://kazenomura.jp/>

【活動開始年】昭和51年(法人化:平成10年3月) 【代表者】池田 徹 【住所】〒285-0837 佐倉市王子台1-28-8 ちばぎん臼井ビル4F
 【TEL】043-309-5812 【事業担当者】川上葉子 【e-mail】kawakami.yoko@kazenomura.jp

■ 広報ツール

WEB メルマガ 広誌 ブログ FB tw

■ 協働事業の実績

企業 行政 教育 地域 NPO

■ これまでに支援を受けた補助金等

【補助金】①千葉県:連携・協働による地域課題解決モデル事業(H24)
 ②関東農政局:「農」のある暮らしづくり交付金事業(H25)
 【委託】-

■ 表彰歴・マスコミ掲載歴等

- ① 農fes~ユニバーサル農業フェスタinさくら~2013、2014
- ② 佐倉アグリフォーラム&ユニバーサル農業フェスタ2015、2016(ケーブルテレビ296、チャンネルさくら、こうほう佐倉)
- ③ ユニバーサル農業さくら販売会(こうほう佐倉、チャンネルさくら)
- ④ 東京新聞(新規就農者・吉竹賢一氏(H24)) ⑤ 読売新聞(H27年5月) ⑥ 全国農業新聞(H27年8月)

